

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 氏名 | 小 林 征 二 |
| 学 位 の 種 類 | 医 学 博 士 |
| 学 位 授 与 番 号 | 乙 第 1410 号 |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 昭和58年9月30日 |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当） |
| 学 位 論 文 題 目 | 一腹膜播種に対するBCG、Levamisole 免疫療法一 |
| 論 文 審 査 委 員 | 教授 木村郁郎 教授 寺本 滋 教授 太田善介 |

学位論文内容の要旨

マウス腹壁を腸管壁と見なす消化器癌の実験モデルを作製し、これに BCG, LMS 免疫療法を行ない若干の知見が得られたので報告する。1. 実験モデルにおける腫瘍の進展：マウス腹壁皮下に移植された Ehrlich 腹水癌細胞は腹壁を浸潤し約2週後には壁側腹膜に達し、次いで腹腔内へ遊離し腹膜播種を起した。その後腫瘍移植マウスは3週間以内に全例腫瘍死した。2. BCG の効果：癌細胞移植のみの群では腫瘍径、平均生存日数ともに対照に比し有意差を示したが、癌細胞移植後投与群及び癌細胞移植前後投与群はいづれについても有意差はなかった。3. BCG と LMS の比較：癌細胞移植前投与は LMS の投与時期に問題があるが BCG が優れており、ある程度腫瘍が進行した状態での投与では LMS が優れていると思われた。

論文審査の結果の要旨

本研究は腹膜播種に対する BCG, Levamisole による免疫療法について実験的に研究したものであるが、従来十分検討されていなかった移植腫瘍の腹膜浸潤に対するこれら両薬剤の効果について特に BCG による感作群が優れた効果を呈することを認め、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。